

# 富士十首

二十回生 井出 敏

(藤川)

うすぎぬをまとうがごとく春の富士山裾ながくひきつつそびぬ

いた走る千石高原の後方に富士見えくれば歓声あがる

大観山に富士の勇姿とのぞみおり振り向けば海の遠くひかりぬ

涼風に身を委ねつつ夏富士と真向う位置にまどろみいたり

富士噴火の溶岩流ととりいれし木陰すずしき庭にあそびぬ (三鳥梁寿園)

一面に雲くだりいて車窓より見えざる富士の位置たしかめる

井出の祖は富士南麓にありという母の言葉を辿りゆく旅

借景に富士全容ととりいれし日本一の座敷にくつろぐ(富士宮市狩宿の井出家で)

今日仰ぐ富士の高嶺の晴れ晴れし受賞の夫に従きあゆみゆく(皇居豊明殿にて)  
垂れこめし雲間に白くかがやきぬ夕富士の次第に遠ざかりたり

富士山は日本の象徴であり誇りでもあります。富士霊峰を眺めることは大阪・東京を、往き来する時の私の楽しみの一つです。今回は富士の歌を選んでみました。

## 金婚を迎えて

高砂の 松は不変の 深みどり  
しわぶきも 慎む 皇居豊明殿  
一匹の 夢食う虫が いればいい  
老夫婦 阿吽の呼吸も 乱れ勝ら  
お互いに よくぞ耐えたと五拾年

二〇〇九年五月二十一日(木)

俊太郎  
胡蝶

ご投稿いただいたファックスの送り状に印刷されていました。  
おめでたい川柳ですので転載させていただきました。編集部